



2026.10.1

園長だより NO127

秋の長雨で日照時間の減少、体調が整わない日々が続きます。台風、大雨、比較的短期的な周期で訪れる自然の生業、これからも続くであろう自然災害に備えていくことを意識して下さい。

子ども達はこんな天候が続こうとも元気な姿を見せています。室内でも楽しむ術を心得ているようです。

指導計画（指導案）の 課題

乳幼児の施設では日々の生活（保育）を営むための計画があるわけです。概ねどこの園でも計画はあり作成されています。全体的な計画（保育課程）年間、月、週、日という単位で計画があります。加えて乳児ともなれば個別の計画が存在しています。一見、子どもと一緒に遊んでいるだけでしょと思われがちですが実に細やかに様々な業務があるわけです。

昨今は保育（教育）の在り方も変化していますので子どもに寄り添った内容の計画を立案しています。

昔は計画ばかりが先行し大人の考えた内容、大人の願いや思いが反映されているものに子ども達は計画通りに動かされていく傾向が色濃くありました。

他園で指導案（計画）を拝見する機会がありました。立案者は運動会を控え、子ども達と向き合うのがしんどいと感じるときがあると云います。

計画は競技や遊戯、入退場の行進、当日の隊形など細かに記されていました。

計画には当然、その活動の目標やポイントなどが書かれています。タイムスケジュールも分刻みに細かく書かれています。一見、活動がうまく配列されているようにみえますが、教え、学ばせることに主眼が置かれています。専門的な言葉を綴り、形式を整えて立案していますがいったい先生は何をしたいのかな？

子どもの地点に立った文言は記されていませんでした。運動会の競技なり、遊戯をしっかりと子どもに教えるということがひしひしと伝わるものでした。自分が子どもであったら自分が自分でなくなっているかもしれません。先生は力をいれ統制をとるような関わりをおのずと、とってしまうと危惧しました。

目標には 「子ども達が楽しく行う」「子ども達で自主的に行える」という2点が記されていました。

私はどうやったらこの計画で子ども達が楽しくやるのだろうか 子ども達の自主性とはこの活動からみられるのだろうかと考えた。

計画や指導案は大人の考えた内容を消化するためのものではないはずである。

子どもと共にどんな生活を送ろうとするかわば設計図のようなものだと思います。

私も若かったころ※かなり前の事です教え、学ばせることに価値があるような思いを抱いた時期があっただけに、立案した先生的心情にも共感できる部分もあります。そもそも行事が生活の集大成であり、しっかりと整い、

教えたものを律儀に身につけ、身にまとい、発表する文化が長く続いていたことが起因し計画がこのようになっていると思います。

園の数ほど考えはあるでしょう、うちの園では競技や遊戯や入場行進もしっかりと教え、当日はしっかりと成果をお見せしますと胸を張る園も存在しているのも現実です。

子どもがまんなかにある運動会

こんな園もあります。どちらかというと理想としたい園の取り組みです。

子どもと考える。子どもが決める。当然、保育者も一緒に、考え、取り組んでいく、あくまでも子ども達が考えたことを実現するようなスタイルの保育です。

運動会の数週間前。子ども達とのミーティング（話し合い）で「そろそろ運動会だけどなにやる？」の問題定義で話し合いがはじまる。厳密にいうと子どもから「もううんどうかいだよ、何をやる」の提案からである。結構な時間をかけて、やりたいものをあげていく、意見がでると紙にかき壁面に張り付ける。どんどんでる、競技案は80位である。できそうなものもできそうでないものもある。ただ、話し合いには約束事がある、みんながわかるもの、みんなができるものという約束があり、出てきた競技案が吟味される。買い物競争がしたいと意見が出る、本当に商店街に買い物に行く競争という。

できそうであり、できなそうであり、こんなことを子ども達が話し合うわけであり、

時には運動会の数日前に競技が決まることもあるという、子どもが考えることだからファンタジーの世界が満喫の意見もある。混沌としながらもみんなの運動会を子どもなりに考えて取り組んでいる。

教え込むことから、自ら考える、当日までの過程、そして当日も子どもが主役でいられる子どもと共にどんな生活を送ろうかと考えていることが伝わってきます。

子ども、子ども達が考えたことを実現する生活にするため、共にいる大人（保育士）の感性と感覚は優れていると感心する。決められたものを教え、学ばせることは簡単ではないが手順展開は概ね定められている。計画のない部分から作り上げていくには相応の対応が必要である。 スバ抜けた実践集団でないといけない術である。

おおぞらでも運動会がすぐそこまできている。 私は運動会みたいな会と言っている。今ある力で無理なくできるもの、練習といわず遊びの延長線上のものであってほしい

日々の生活は、運動会のためだけのものではありません。毎日、やりたい、やってみたい遊びがあるのです。生活の中で、バランスをとりながら無理なくできること、やりたいな、みせたいなと思える心持が子ども（保育士）に必要です。 天候が回復し園庭でよく遊び、よく走り、良く動く生活が運動会の源にあります

（おおぞら保育園 園長 廣部信隆）